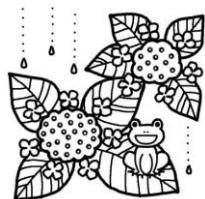


ささやき

編集・発行：特定医療法人 明和会 琵琶湖病院
聴覚障害者外来スタッフ

FAX：077-579-5487
TEL：077-578-2023
E-Mail：mimi@biwako.or.jp



～ 技術革新に思うこと ～

松田 桜子（副院長 医師）

琵琶湖病院の聴覚障害者外来が20周年を迎えたということです。20年とはやはり一時代であると感じます。私が琵琶湖病院にきてから16年が経ちました。私もかなり勤めたものだなあとと思いますが、この20年間は変化がやはり大きいものでした。私が20代の頃、パソコンが始まった頃で、仕事の現場にはワークステーションなるものが入り、「コンピューター」がいろいろなところに入り始めた頃でした。原理はあの頃と変わってはいないのですが、処理速度、データ容量が進化し、インターフェースに工夫がなされ、便利な機能、複雑な機能がどんどん出てきて、20年前と比べて生活の便利さは格段に向上したのだと思います。昔々、点訳サークルに入っていたことがあります。視覚障害の方のために書籍を点訳するのです。厚紙に点をうっていき、文字通りの手作業でした。一人の視覚障害の大学生の教科書や参考文献を点訳するのに、膨大な人手と時間が必要でした。今、あの点訳はどうなっているのでしょうか。障害がある人に便利、ということは一般の方にも便利ということであって、最近のIT技術でかなり革新的な手段が開発されてきたのではないかなと思います。聴覚障害の方のための情報環境はどうなのでしょう。IT技術で、生活の不自由さは減少していますか？たくさんの方の手間がかからずに生活の欲求が満たされることが可能になってきているならば、とてもいいことであると思います。ただ、人間って複雑で、たとえ便利で、誰の手も直接に煩わすことなく、一人、部屋にこもって生きていくことが可能であったとしても、それが全く幸せなことではなさそうなのです。点訳サークルのときも、私はあまり貢献できなかったのですが、資格をめざして頑張っている視覚障害者のために、多くの学生が集い、集団で調整しあいながら協力し、目標が達成できたときには皆で喜びを共有していました。そういう、「人のつながり」がとても大事であるのだと思います。IT技術にはどんどん進化していてもほしい。面倒なことがどんどんなくなるようになってほしい。一面、人と人とのつながりについては、意識をもってつくっていかないといけない時代になってきているのだな、と、この20年ほどを振り返った感想です。

最近のトピックス

本年4月より聴覚障害者外来は開設後21年目に入っていますが、5月17日夜に当院の福利厚生施設である浄心園で、20周年記念パーティーが催されました。

諸般の事情により内輪だけの企画となりましたが、当日は今までに当外来を取材したマスコミの記事や写真、書籍なども用意して、20年間の思い出話に花を咲かせました。

また、従来ご協力や連携をいただいた関係機関と皆様方には、改めて深謝の意を表したいと思います。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

